

2003年6月の 第91回ILO総会について

堀内 光子



ILOの駐日代表をしております堀内です。もう1つ重要な仕事として、ジェンダー特別アドバイザーもやっております。

2003年ILO総会の報告ということですので、今日のテーマの「雇用関係の範囲」は、最近の重要なテーマではありますが、それ以外にも、いろいろな議題がありますので、この機会に5分ほど時間を拝借して、全体の概要をご報告させていただきたいと思っております。

第91回国際労働会議（ILO総会）の課題と成果

I. 議題

1. 一般討議 (1) 「貧困から抜け出す手段」（事務局長報告）（日本語訳作業中）
－仕事こそが貧困から抜け出すための主な道－
(2) 「雇用関係の範囲」（参考資料②③）
2. 特別会合：アラブ占領地域の労働者の状況
アラブ占領地域での失業と貧困への取組みを中心に討議（事務局長報告）
3. ILO新宣言「仕事における基本的原則及び権利」に関するグローバルレポート
「仕事における平等の時」（概要 日本語訳あり 全文日本語訳作業中）（参考資料①）
4. 労働基準関係
 - (1) 知識社会における人材開発及び訓練
(150号勧告の見直し 第一次討議)
2004年新勧告採択予定－雇用可能性と生涯学習の定義も盛り込む予定
 - (2) 船員の身分証明の保障性の改善
185号条約（108号条約の改正）採択。船員のより厳格な身分証明体制の確立。
最大の特徴は、新技術を駆使したIDの設定。
 - (3) 職業安全衛生の労働基準関係活動、初の「統合方式」による検討の結果、ILO世界戦略を採択。主要点は、①安全衛生予防文化の導入及び、②総合的な安全衛生「ツールボックス」（道具箱）の開発
5. 条約勧告適用委員会
ミャンマーにおける強制労働等
6. 財政問題
2004～05年事業計画・予算については実質ゼロ成長の5億2959万ドルの予算を採択（日本分担率19.21804%）

II. イベント

- (1) 「全ての人々に社会保障を」グローバル・キャンペーンの開始（6月18日）
- (2) 児童労働反対世界デー（6月12日）

皆様のお手元に、第91回国際労働会議—ILO総会が通称でございますが—の議題と成果という、ILO駐日事務所のレジメがお手元に1枚あると思うのですが、そこに非常に簡単に今年の総会の議題が載せてございますので、ごらんいただきたいと思います。私ども、大変重要だと思っておりますのは、この一般討議の1の(1)でございます。事務局長報告の、「貧困から抜け出す手段（working out of poverty）」で、これは仕事こそが貧困から抜け出すための主要な手段である、ということをお訴えた報告書として、現在、日本語訳を急いでおります。来年初めには日本語訳を作って、この問題は、労働政策というよりは、開発援助政策に占める「仕事」の位置づけの重要性ということで、当事務所でも開発政策の中における仕事の意味、労働の意義というものに来年は取り組みたいと思っています。この「貧困から抜け出す手段」という事務局長報告は、大変重要な報告書だと思っております。

ILOにお詳しい方はご存じだと思いますけれども、1944年のフィラデルフィア宣言に、一部の貧困は全体の繁栄の脅威だと言っております通り、ILOはすでに第2次世界大戦中に、戦後当時の植民地が独立していった場合に、開発問題が重要になるということを、すでに1944年当時に見越しての宣言ができておりました。この貧困から抜け出す、「貧困と仕事」の問題は、重要なテーマと思っております。ご理解をいただきたいと思います。

それから2つ目は、雇用関係の範囲で、これから皆さんにご議論いただきます。3つ目で大変重要なのは、3のILO新宣言です。ILOは、ILO宣言「仕事における基本的原則と権利」に関する4つの原則ごとに、毎年グローバル・レポートを発表しております。今年は4つの原則が一巡する最後のレポートです。平等を取り扱っております。事務局長報告のタイトルが、「仕事における平等の時」。この概要は日本語訳があります。お手元のレジメの参考資料に、事務局長の「仕事における平等の時」のメッセージを印刷しています。お読みいただければ、ありがたく思います（参考資料①）。このグローバル・レポートの討議は、大変重要だと思っております。

それから4点目としましては、国際労働基準関係です。1つ目は、知識社会における職業訓練、生涯学習がテーマです。第1次討議が今年はじまりまして、来年、新勧告の採択予定で、この中で雇用可能性と生涯学習の定義が入るだろうと思います。2点目は、セキュリティの問題と関係した船員の身分証明の問題です。ILOとしてはめずらしく、第1回で、第1次討議だけで条約を作ったというものでして、メインは新技術を駆使したID（身分証明）の設定ということです。これはテロの問題等もございまして、身分証明と、治安といいますか、セキュリティの問題をどう確保するか、大変現代的なトピックです。

それから3つ目は、職業安全衛生で、初の統合方式でILO世界戦略を採択しました。これはすでに日本では行われていることですが、安全衛生のむしろ予防文化の導入をするということと、それから総合的な安全衛生のツールボックス、要するに総合化していこうということです。労働基準関係では、以上の3点が議論されまして、第1点の人材開発と訓練についてだけ、来年、引き続き議論をし、新勧告が採択される予定です。

5点目は、通常議題ですが、条約勧告適用委員会案件です。引き続きミャンマーの強制労働問題が議論されているということだけを申し述べます。

今年の総会で、事務局として大変重要だと思っているのは、ILOの財政問題です。ILOは2年予

算で、今年が最終年で、来年から新年がはじまります。2004年から05年の2年間予算で、実質ゼロ成長の5億2959万ドル、だいたい日本円にしますと600億円（1ドル120円弱として）ぐらいですか。皆さん、これは安いと思うか、高いと思うか、お考えいただきたいと思います。日本の分担率が19.2%ということでした。

金額はこのように決まりましたが、事業そのものはファン・ソマヴィア氏が事務局長に就任以来、ディーセント・ワークを目標にして活動しております。ディーセント・ワークは、権利、仕事の創出、それから社会保護と対話という、4戦略目標を統合してできあがった概念で、事業計画は引き続き、この目標に沿って行っていくということです。

合わせまして、ILOは実際の事業もそうですが、広報も、私どもの問題意識を皆さんと共有しながら活動するというを進めておまして、総会中に2つ、イベントがありました。1つは、6月12日が児童労働反対世界デーで、日本でも今年は高校生、大学生を対象にワークショップを開催しました。ジュネーブではヨルダンの王妃が来られて演説をしました。それからもう1つが、「すべての人々に社会保障を」というグローバル・キャンペーンの開始です。世界全体では2割の人しか社会保障の適用がなく、従って、残り8割は社会保障がないために、社会保障適用拡大のキャンペーンをはじめました。

これが簡単な今年の総会の説明です。雇用関係の範囲につきまして、議論をしていただきますが、この議論のバックグラウンド情報として、1枚の紙に簡単にまとめたものを、はじめてお聞きになる方のために用意させていただきました（参考資料②）。

「雇用関係の範囲」は、今回は一般討議でしたが、97、98年は、条約勧告を作るという労働基準設定に関する議題として、「契約労働」というテーマで議論したのですが、定義等が十分できなかったためにとまらず、ILOが98年以降、国別の調査結果をし、専門家会議を開き、そして今年の総会の一般討議になったというものです。要するに問題は、とくに独立の労働者に関係して、雇用関係の規制の範囲をどう考えるかという、労働法制の実効性のある実施を達成するために、雇用関係の範囲というのはどういうものか、ということで議論されたものです。「契約労働」ということではじまりましたけれども、結局、専門家が議論した結果、契約労働というよりは雇用関係の範囲ということで議論すべきであるということになり、2001年以降、ILOは雇用関係の範囲ということで、調査、研究、議論を行ったというものです。

ちょっとお時間が長くなりましたが、ご説明させていただきました。ありがとうございました。（拍手）

（ほりうち・みつこ ILO駐日代表）